

改築のテーマ

『やすみにきませんか』

疲れた者、重荷を負う者は、
だれでもわたしのもとに来なさい。
休ませてあげよう。
(マタイ11:28)

改築の目的

ヴァイアル主教から引き継いだ後、休息＝祈りの場所として東北教区が大切にしてきた「ヴァイアル山荘」を後世へ紡ぎ続けるため、これからも「疲れた心と体を休息できる場所」としていくために、『やすみにきませんか』のテーマのもと改築へ動き出しています。

利用方法の一例

- ◇召命黙想会や祈りの集い
- ◇青少年キャンプ
- ◇幼保園の夏の行事での利用
- ◇教会や日曜学校のファミリーキャンプ
- ◇リトリート
- ◇日常を離れてゆっくり過ごす
(湖畔展望、読書、満点の星空を眺める…) など…

完成イメージ

西側



北側



資金内訳

総工費予定額	20,000,000円
- 資金計画 -	-
自己資金額	7,000,000円
大斎克己献金奉獻額	10,000,000円
募金目標額	3,000,000円

募金目標額 3,000,000円

受付期間

2021年6月～2021年12月31日

募金窓口

ゆうちょ銀行 郵便振替口座
口座番号:02230-1-128968
口座名称:東北教区 十和田湖畔施設活用グループ
同封の払込用紙によりご送金ください。

所在地

秋田県鹿角郡小坂町十和田湖銀山13番地2



お問い合わせ

電話 017-721-6156
(青森聖アンデレ教会 司祭 長谷川清純)

日本聖公会東北教区
十和田湖畔施設活用グループ

十和田湖畔 ヴァイアル山荘 改築のための 募金のお願い

『やすみにきませんか』

疲れた者、重荷を負う者は、
だれでもわたしのもとに来なさい。
休ませてあげよう。
(マタイ11:28)



すべて疲れた人の休息の場として

主の平和がありますように。

ヴァイアル山荘は100年の間、十和田湖畔の静かな自然の中で、祈りと交わりの場として多くの人を癒やし続けてきました。今、教区はこの場を後世へとつなげていく使命があると考えています。

私たちの生活は度重なる災害や想像を上回る社会環境の変化により、ストレスや心の傷を抱えています。

そんな現代社会において思われるのは、福音書で紹介される主イエスの「リトリート(「退却」「隠れ家」「黙想」などの意味)」です。主が「祈るためにひとり山にお登りになった(マタイ14:23)」り、「ひとり人里離れた所に退かれ(同14:13)」たのは、いったん喧騒を離れ、ひとりそっと祈られることが、公生涯における働きのために必要なことだったからです。

私たちも、それぞれの現実と向き合って生きていくためにも、ほんのひと時でも日々抱えている重荷を降ろすリトリートの時が必要ではないでしょうか。山荘が建つこの土地は、今

救主降生2021年 聖霊降臨節

教区主教 主教 ヨハネ 吉田 雅人

十和田湖畔施設活用グループ

リーダー 司祭 フランシス 長谷川清純

歴史・沿革

- ◇1918年 秋田聖救主教会に勤務されていた、アメリカ人宣教師のアンデルス司祭が、十和田銀山に宅地を購入。現在の家屋を建て「招仙閣」と命名。
- ◇1934年 福音史家聖ヨハネ修士会(院長:ヴァイアル主教)が譲り受け、祈りと黙想の場とした。
- ◇1976年 聖ヨハネ修士会から「招仙閣」の土地と建物が東北教区に寄附され、後にこの地を愛したヴァイアル主教の名を後世に残すため「ヴァイアル山荘」と改名。
- ◇1990年代 東北教区のファミリーキャンプ、日曜学校のキャンプ、幼稚園のお泊り会などで山荘が最も盛んに利用された時代であった。
- ◇2000年代 次第に宿泊の利用は減ってきたが、毎年8月に鉛山聖救主礼拝堂で行われる「平和の祈り」の後の交わりの場として利用されてきた。近年では山荘の老朽化が進み、今後の使い方や修繕計画などの積年の課題をどのように解決していくか話し合いが続けられてきた。
- ◇2020年11月 東北教区第103(定期)教区会は満場一致で山荘の改築の基本計画を承認。
- ◇2020年12月 2021年度日本聖公会大斎克己献金国内伝道強化奉獻先に決定。